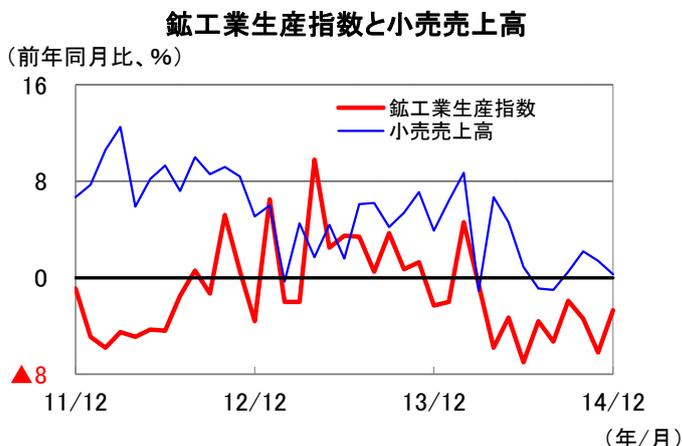


今日のトピック 最近の指標から見るブラジル経済(2015年2月) 財政再建・物価抑制の効果に期待

ポイント1 生産は低迷、消費は伸び悩み 利上げや外需の弱さが影響

- 2014年12月の鉱工業生産指数は前年同月比▲2.7%と、同年3月以降10カ月連続のマイナスになりました。また、同月の小売売上高は前年同月比+0.3%と、前月の同+1.4%から低下しました。利上げや外需の弱さから生産は低迷が続いており、消費は伸び悩んでいます。
- 2015年1月の輸出は前年同月比▲14.5%と、8月以降6カ月連続のマイナスになりました。全体の約10%を占める中国向けが同▲38.2%と大きく落ち込むなど、外需は全般に弱い状況です。



(注) データは2011年12月～2014年12月。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価高が当面続く見込み 電力料金引き上げやリアル安が背景

- 2015年1月の消費者物価指数は、前年同月比+7.14%と、前月の同+6.41%から上昇し、ブラジル中央銀行(以下、中銀)の物価目標(年+2.5%～+6.5%)の上限を大きく超えました。干ばつの影響と見られる食品の値上がりや、電力や公共交通の料金引き上げが主要要因です。
- 政府は、財政再建のために電力会社への補助金を削減し、料金値上げを認める方向にあり、今後も物価全体が押し上げられると見られます。リアル安の影響も見込まれ物価高が続きます。



(注) データは2012年1月～2015年1月。
消費者物価指数の市場予想は、ブラジル中央銀行が2月18日に発表した調査結果。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 物価抑制や財政再建により、中長期的な成長見通しは改善へ

- 物価の高止まりが当面続くと見られ、中銀は次回会合(3月3日～4日)以降も現在12.25%の政策金利をさらに引き上げると見込まれます。
- 1月に就任したレビ財務相は財政再建に向け、増税の方針を打ち出しています。中銀・政府の政策は、景気に対して当面抑制的と見られます。
- 足元では、降雨量の不足から水力発電(総電力の約7割を供給)量が落ち込み、経済活動を抑える懸念が生じています。
- 難しい情勢が続くものの、政府・中銀による財政再建や物価抑制の効果も期待され、中長期的な成長見通しは改善に向かうと思われます。

ここも チェック!

2015年02月18日 「ルセフ政権」を悩ます水不足(ブラジル)
2015年02月03日 ブラジルレアルの足元の動向と今後の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。